

平成27年度

## 「第6回市民参加と協働のまちづくりフォーラム」

～ すく出せ大町 みんなが主役 コミュニティ形成のヒントを探る ～

平成27年12月19日（土）

サン・アルプス大町 2階「大会議室」

### 日 程

13:00 開 会

13:15～15:00 映画上映 「みんなの学校」

15:10～16:10 ミニワークショップ

「市民主役のまちづくりに向けたコミュニティ形成とは!!」

16:10～16:30 グループ発表（各班2分以内）

16:30 閉 会

### 映画上映 「みんなの学校」

上映時間：105分 製作：関西テレビ放送 配給：東風

#### 《映画ストーリー（抜粋）》

全ての子どもに居場所がある、学校づくりを目指す、大阪市立南住吉大空小学校の取り組みを、長期にわたり丁寧に追いつけた教育ドキュメンタリー映画です。

日々の学校生活から、様々なドラマを生みながら、子どもも親も、学校も地域も社会も、子ども達と一緒に徐々に変わっていく姿が鮮明に描かれています。

学校というコミュニティ組織を主として描かれた映画ですが、これは、地域における自治会や市民活動団体、企業はもちろんのこと、市全域を含めたあらゆる場面でのコミュニティ形成をしていく上でのデザインなのかもしれません・・・。

#### 「全ての子供に居場所がある学校を作りたい。」

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる発達障害がある子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。

ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまう子ども、つい友達に暴力をふるってしまう子ども、みんなで見守ります。あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と噂される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はど

こへ行くの？ そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び舎で居場所をみつけ、春には卒業式を迎えます。

いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校してくるようになりました。

### 「学校が変われば、地域が変わる。そして、社会が変わっていく。」

このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。

映画は、日々生まれかわるように育っていく子供たちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よろこび……。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。

そもそも学びとは何でしょう？ そして、あるべき公教育の姿とは？ 大空小学校には、そのヒントが溢れています。

一つの学校のドキュメンタリー映画の中に、地域づくりやまちづくりにつながる「コミュニティ形成」のデザインが描かれています。

大町市が目指す「市民参加と協働のまちづくり」のヒントがここにあるのかもしれない！？

## **ミニワークショップ**

参加者を10グループに分けて、ミニワークショップを開催

進行：市役所若手職員及び中堅職員（2～3名）

### **『進め方』**

#### ミニワークショップ

「市民主役のまちづくりに向けたコミュニティ形成とは！！」

- ①司会進行者の紹介（市若手職員及び市民参加協働推進員から選出された職員）
- ②映画を鑑賞しての感想等
- ③自分が描くまちづくりや大切にしているコミュニティ（付箋形式）
- ④みんなの意見など通じての感想等

#### グループ発表

- ①結びに、各グループの司会者が、ミニワークショップから出された意見等から、要点について発表する。

【グループ1】 司会者：中澤 葉・大羽 英樹・松本 昌洋

- ・ 全校集会の場で、みんなで作る学校
- ・ 自分たちの学校は自分たちがつくる
- ・ 子供たちをありのまま受け入れられる地域の力
- ・ 皆がつくる学校、子供が支えられながら頑張っている
- ・ 校長先生すごい、（あそこまでやっていいんだ！）信念がすごい
- ・ 校長先生1人でやっているように見えるが、仲間、チームワークでやっている
- ・ 校長先生は役職を多く持ってはいけない、学校にいて生徒たちをみる方がよい
- ・ 100m泳げる子が100mに留まるより、水に入れなかった子が水に入れるようになった方が○  
その子に合った評価軸が良い
- ・ せいちゃんの表情が良くなった 周りが受け入れている
- ・ 校長先生も頑張っているが、他の先生も一人称、自分のこととして考え、目配りしているのは自分たちの集団でも大切
- ・ 防災 方針を共有して同じ方向に進んでいる
- ・ 情報共有って大切である
- ・ 対話によって理解し合うことが大切
- ・ 学校が地域を引っ張っていくことがすごい
- ・ コミュニティスクールがすすんできている、都会でもできることが分かった
- ・ 美麻の入学式で「教室はあなたがあなたらしくしていい所」だと言われたことを思い出した
- ・ 自治会でも違いを見つけて
- ・ 自治会で若い人が引っ越してきた時、入れてよいかどうか、自治会が決めるということがあったが、せっかくだからと入ってもらった
- ・ 大人が気を使いすぎて子供のコミュニティが減っている 子供からするともっと関わって欲しい
- ・ とんりの人、地域、他の世代の人に関心をもつ コミュニティの大切さ
- ・ 顔をあわせることの大切さ、挨拶



**【グループ2】 司会者：左右田 慎也・松原 亨、原田 香納子**

- ・PTA を通じて、映画のような学校の様子、子供たちの様子がわからない→大事なのは共有すること、さらけ出すこと
- ・大町市内の学校にもある→レッテル貼らない（当たり前と思っていることは当たり前でない）
- ・地域の人達との密接な関係を築こう→それぞれの立場で出来ることをやれば良い  
→周りの人達も成長して、お互い成長できる
- ・子供達の挨拶が嬉しい 子供たちのエネルギーは元気づけられる
- ・まちづくりと学校は同じこと
- ・昔は自然に学校に行っていたのに、今は先生も親も大変だなあ
- ・クラブチームや塾は上を目指しているので、求めるものが横一線（ある程度のレベル）届いてない子がいるならボランティアの様な人達が不可欠
- ・子煩悩にしないでほったらかす勇気を
- ・いくつもの保育園を回っていると地域によって色がある  
（3世代で保育園に関わっている地域は温かい）
- ・これからできること 何気ない挨拶から始めよう、多様な価値観を認め合おう



【グループ3】 司会者：塩入 正幸・鷲澤 久志・福島 悠

- ・ 本当の幸福を下の世代へ伝える ・ 皆で責任を持ち皆で作っていく
- ・ 固定観念、先入観→個々の話合い
- ・ 人を受け入れる →組織で
- ・ 障がい者と一緒に仕事をしていると、障がい者の事について調べたりし、理解しようとする。  
人に物を教える→その人を理解したうえでどの様にしたら良いか、自分が向上していく
- ・ アレルギー、人それぞれの子を考えて皆で食べられるように気づかう
- ・ 初心を忘れるな（言葉使い）
- ・ 家庭の問題 人それぞれ考え方、収入の格差が違う等含めて受け入れる
- ・ 労働の場の減少による違いも受け入れる
- ・ 余生は北アルプスと共に生きていきたい
- ・ 思いやりを持って人を理解する
- ・ 人との接し方でクラスも周りも変わる、学校も地域も含めて
- ・ 大町の子供は生き生きしている
- ・ 大町が好きで移住したが、最近、ソーラー発電がちょっと多いかな・・・  
ソーラー発電で防犯灯など付けられないか



## 【グループ4】 司会者：高木 唯・荒井 賢治・青山 和宏

- ・仲間を大切にする ・そのままを受け入れる、受け入れる姿勢が大切
- ・関わりの大切さ、自分と違うということを認める ・皆を受け入れる意識が大切
- ・様々な人がいて受け入れるところ、失敗→学習の一つに
- ・目標を定め、皆で行動、支えあう ・自分が嫌なことは人にしない
- ・人への笑顔、変容、成長が素晴らしかった ・多様な環境に慣れていく
- ・周囲の協力で毎日を過ごすことは大変、感心する ・人の輪が素敵、見守る事も大切
- ・伝統芸能でも後継者がいない 獅子舞なども途切れてしまう  
Iターンばかりでなく、地元民が残るようなシステムや教育が必要
- ・若い人を留めるには  
工場誘致 → 働く場所をつくる → 十分良さは分かっている でも生活ができない
- ・地域のコミュニティスクール → 西小 協力者多く 読み聞かせグループなど
- ・信大の卒業生 → 地元への定着が少なく、優秀な人材が流出してしまう
- ・今の子供は忙しい → かわいそう
- ・システムの難しいが、成長に応じた指導が大切  
今の学校は地域と作っていて、子供が認め合っていることも多くある⇒PTCA
- ・美麻小中学校は、小規模校で、校内で小中学生が係わることが多く、いじめなどもない

### まとめ

教育、商業、工業、移住、伝統文化など、多方面に関するご意見を出してもらった「若い人が働く場があるとよい」「問題をオープンにしていく勇気を」「地域にもっと関心を」  
**地域づくりが必要、人材不足といいつつもこれだけの人が集まってきている大町は大丈夫！**



## 【グループ5】 司会者：高山 祥子・下條 勉

- ・校長先生の「何でこんな子が来てしまったんだろう」  
→思ってしまう点で身近に感じた →しかし先生も変わっていった
- ・周りが変わると全てが変わる 一人ではなく皆で考える事が必要
- ・子供達を変えることで地域が変わる
- ・校長先生と距離が近い→組織のTOPが近い
- ・先生同士の支え合いの素晴らしさ **お互いの立場を理解することが大切**
- ・その人が変わったのではなく、周りの接し方が変わった 目指していきたい
- ・「文化祭」のヒントにしたい 文化祭は全員でつくる
- ・学校も地域も自分たちでつくる
- ・人づくり、仲間作り →人に伝えられるように実施
- ・勉強会の中で気付きを得ることにより →皆が意見を言えるようになってきた
- ・地域の人と接することで生徒会をより良くしたい
- ・岳陽高校を地域の人に知ってもらいたい  
→地域の皆さんの近くへ行って、距離を縮めたい。  
→地域の方が行きやすい学校
- ・「**地域の人を知る**」「**知り合う**」ことの必要
- ・「**学校づくり、文化祭づくり**」について、**地域の人ともに「相手を認める**」



## 【グループ6】 司会者：阪井 昭啓・佐藤 博

- ・先生の熱心さ、子供の真剣さ ・学校に来れなかった子供が最後はありがとう
- ・学校が変われば変わる ・サポートの姿 ・先生を生徒が受け入れる
- ・校長先生「ほんまやで」 人と人の接し方 「受け入れる」
- ・自治会…すべてを受け入れる…子供から大人まで
- ・生徒会…意見の食い違いで…話し合い？ ・話し合いで気を付ける点…相手の話をよく聞く
- ・行動をおこした結果を聞く ・普通の子供たちに対するケア…障がいを持つ子供達だけでなく
- ・新しい友達をつくる時など相手の特徴をつかむ ・いろいろな人達（違いを）認める
- ・「先入観を持たず自分のものさしで」 ・人の違いを認める 学校が変われば地域が変わる
- ・大町はどういう町…例えば、大町は大町というような「いご」とかもっと一つ残るもの
- ・おもいきった政策…子育て支援 ・自分の居場所…居心地のいい場所
- ・友達との会話、話し合う時（自分の意見を伝えられる場所 ・日々の生徒との関わり
- ・学校の交流が大人へ成長、地域の成長、八坂小中も日本一に
- ・若者がこのような話し合いに
- ・学校が存続する力が必要 コミュニティスクール 地域の皆さんの力が必要

### まとめ

人の話を聞くことが大事。

人を巻き込むことは難しいことだが、巻き込むことで達成できることがあるのではないか。

どのようにやるかが難しい問題。 学校が地域の核となる

八坂で全国的にも見本となるような山村留学を行っている。日本で見本となるようなものにしていけたら





【グループ7】 司会者：岡村 幸太 ・ 高橋 正彦

- ・若い人が消防に入らない 自助、共助の意識が薄い
- ・目標に向かってすすめる（反対意見の人への理解を深める）
- ・ゴールは同じなのに、やり方が違うだけなのに理解しあえていない
- ・行事をやらないと地域が繋がらない 何かやらなければ人と人は繋がらない
- ・人とのつながりがなく困っている人がいる
- ・自治会の未加入等の問題 コミュニティスクール 人と人をつなぐ場をつくることが大事
- ・大人と子供のかかわりを作る（仕掛けを用意する）学校の敷居を下げる  
世代を越えた交流の場づくり 中高生に街に出てきてほしい ⇔つながり
- ・自分だけ良ければいいという考えでは生きていけない（地震等）
- ・外よりも内に目を向ける（地域、住んでいる人の満足、自分の幸福感）
- ・障がいを持った子供たちを差別することなく、みんな一緒に学ぶことがいいと思った
- ・周りの子（人）たちが変わらなければいけない
- ・周りが変われば、「校長先生最後の砦」 「自分の感情に引きずられず」
- ・生ききる事を考えている 教育難しい ・子供を一人一人の人間として扱っている
- ・周りを育てる事が大事 ・周りの子供たちが育っている 1人1人がベストをつくす
- ・高齢化により自治会運営出来なくなるのでは？ 未加入者も増えている

まとめ

周りの人が変われば変わっていく 今後どのようなことをしていくといいか。地域との関わりが希薄になっている。 地域との繋がりを持つ場所を作ることが必要



## 【グループ8】 司会者：北澤 美沙・松倉 康治

- ・知識を身につける場が学校である
- ・コミュニケーションの一つとして名前、顔を覚える
- ・大町は人口が多くない中で、深く入らない中でも目を向けている、住みやすい
- ・大町市は仲間に入り易い
- ・自然は素晴らしい
- ・大町の良さは自然ということが表に出てるのもっとPRを
- ・もっと資源を活用した取り組みも
- ・となり近所のつながりの大切さ
- ・自由に遊べたところが、今は遊びづらい
- ・大町の魅力を再発見
- ・素直に大変と思ったが皆が一生懸命に接する姿に感動した
- ・人の話や色んなことに耳を傾ける
- ・提案者の立場に立って 耳を傾けて判断して欲しい
- ・よその真似

### まとめ

コミュニティを大事にすることとは何かということ話し合った結果、  
人と接する事、交流、人の話、その人の思いを聞く  
一人一人の声を大切にする コミュニティとして大切にする  
夢を持っているので大町は大丈夫と感じた



## 【グループ9】 司会者：飯島 千晴 ・ 本堂 勝也

- ・ 校長先生、自分の学校 自分で作る インパクトあった
- ・ 鉛筆の芯がすり減っているお母さんの喜び、今まで何もできなかった
- ・ 校長先生の熱心な気持ちに感動した 支える先生が必要 良い映画を見せてもらった
- ・ 支援の必要な周りの子供の接し方、手を差しのべる子が多い 教え方で、やさしい子が育つ
- ・ 校長先生が生徒の意見を聞きながら指導を行っている 100m泳げるより、1m泳ぐ努力に感銘
- ・ 協働はリーダーが重要 ・ 協働のまちづくり→「地域に必要なもの」
- ・ 理想の教師像、校長先生の子供への接し方 怒られた後、ほめている 必要で大切
- ・ 映画に感動「愛情と情熱をもって接すると成功する」  
ほめると人は伸びる、嬉しい、情熱を持っていると言葉足らずでも伝えられる
- ・ 地域で育て、子供たちの興味を育てる 地域を愛して 皆で育てる 先生を増やす必要がある
- ・ 近所のおじさんにも怒られる、知らない人に声をかける ⇒ 危ない ある程度、子供達に地域で声をかけて皆で育てることが必要 ゲームばかりでなく、外で遊ぶ 活気が必要
- ・ コミュニケーションとれていない家庭が多い 挨拶だけではダメ
- ・ 大町に帰ってきて、知らない人も挨拶ができる事にビックリした
- ・ 大町は人が丸い、受け入れてくれる人が多い
- ・ 近所のコミュニケーションが一番必要 人と人とのふれあい 人が集まる場所が必要、色々な世代、立場の方が集まり、意見交換を ネット、スマホ等の普及でコミュニケーション不足
- ・ 映画の学校では先生と生徒とのコミュニケーションがしっかりとれている。
- ・ まずは家庭内でのコミュニケーションから →地域に広がる
- ・ 人と人がふれあい、コミュニケーションをとることが明るい社会、大町市をつくっていく

### まとめ

映画の中では先生と生徒がコミュニケーションをとれている。昔は銭湯など人と人がふれあう場所が多かった。最近チャイムを鳴らさないと人と会えない世の中  
色々な年代職種の方の意見が聞けて良い会となった



【グループ10】 司会者：金原 徹・勝山 直人

- ・学校の状況＝地域の状況
- ・地域での関わりが薄くなっている 個人情報
- ・大人と子供の隔たりがある
- ・子供は地域の宝ではなく親の作品となっている
- ・コミュニティスクール H29～あと2年
- ・地区の行事 少子化 高校卒業 外に出る
- ・小中学校でつながっていたのが切れてしまう
- ・映画には、関西人特有の気さくさあり
- ・つながり →高校は外部の人間を入れたがらない
- ・高齢者は関わり方がわからない 子供と接触がない
- ・コミュニティスクールは下からが理想
- ・校長は素晴らしい 現実ほとんど違う
- ・支援が必要な子も5歳児健診で早期発見できている
- ・子供をおおらかに見守ることが必要
- ・思いやりの気持ちが大切
- ・関わりが怖い部分もある
- ・学校と社会が昔と変わっている
- ・ゆとりある生活を送りたい
- ・高齢者の居場所が欲しい（カラオケなど）
- ・市長への手紙方式で、下からの意見を上げる
- ・上からのコミュニティスクール化に危惧
- ・自治会加入強制はよくない（会費が高い）
- ・話し合いの場が減ってきている
- ・違った意見も認める事が大切
- ・ネット社会 挨拶できるか？が大事 SNSでもOK
- ・大町のよさを離れて分かる部分もある
- ・帰ってくると大町はいいところと思う

まとめ

市長の手紙のような方式で市民の皆さんを受け付ける場があってもよい  
ネット社会でも挨拶ができる子は大丈夫 一度大町を離れて戻ってくると、やっぱり大町はいいという声があった

